

学校だより

第4号

高中訓：心うごかそう～考える・感じる・協働する高中生～
めざす生徒像

- 健康や安全を意識して生活する生徒
- 自分や周りの人のことを考え行動する生徒
- 進んで学習に取り組む生徒

静けき海の心

人権について

12月4日から人権週間がありました。国連で世界人権宣言が採択された12月10日を最終日として、その前一週間という取り決めです。今回は、第37回全国中学生人権作文コンテストで文部科学大臣賞を受賞した「地球人でええやんか」を全校放送で流し、人権について考える機会としました。以下がその作文です。

「地球人でええやんか」 滋賀県中学1年生 木田美映ミシェルさん

小学校4年の帰りにいつもの通り集団で仕事のおばちゃんとすれ違うと、不意に外国籍のおばさんが、私に「あなた何人？」と聞いてこられました。私が、日本人だと答えるとその人達がすごく笑うのでとても不思議に思い、そのことを家に帰って母に話すと「あー、今まで話してなかったけどあんたは地球人やねん。」と真顔で母は答えました。なんぼなんでも4年生の私にそんなテレビみたいなふざけた答えは通用せえへんと思ったけど、そう考えると皆と違うこともいくつか思い当たりました。そういえば私の名前は他の人に比べて長い。省略して記入しようとする怒られる。そしてお父さんの顔は、やたら濃いし、時々知らない言葉で電話している。なんぼなんでもだまされへんで！私の気持ちとは裏腹に母は話し続けました。

「あんたのお父さんは日系ペルー人や。お父さんのおじいちゃんはイギリス人で、そのおじいちゃんのお父さんとお母さんがイギリス人とイタリア人、お父さんのお母さん、すなわちおばあちゃんは日系ペルー人、そのお父さんが日本人、お母さんがペルーの人や。そんなお父さんと結婚したお母さんは日本人や。そやし、あんたは国籍は日本やねんけどいろんな国の血と誇りが混ざった代表でもあるんやから地球人でええやんか。」と…。なんとアバウトな…。

だいたいうちの母は大雑把というかなんとか一言では言い表せないところがあるとは小さいながら気付いてはいたけど、なんぼなんでも地球人なんて言い訳が通用するわけがない。「だからまじめに何人なん？」私は再度大声で確認すると「だいたいお父さんの国ではたいていの人が色々な国の血が混じってる人ばかりやから何人何人てそんなことあんまり言わはらへんねん。だから国籍は日本やけど地球人でええやん。」小学生の私としては本当に釈然としないうま時が過ぎました。それから時々そんな話はでしたが、ことあるごとに地球人という答えしか返ってこないの

で、お姉ちゃんに最近その話をすると、お姉ちゃんから私の知らないお父さんとお母さんの話が出てきました。今でこそ私の両親は私達のスポーツの応援ばかりに追われていますが、お姉ちゃんが小さかった時はお姉ちゃんを連れて学校や公民館など色々な所に外国の生活の現状を皆に話しに行っていたようです。お父さん達日系の人が日本に働きに来て、その時子供達が言葉もわからず、学校の先生も子供も親も皆困っていたそうです。そんな中で今の生活や文化を知ってもらおうと、お父さんおばあちゃん料理教室を開いたり、民族ダンスをひろうしたり、そのダンスにお姉ちゃんも出たことがあったと話してくれました。そういえば、今も外国の民族衣装などが家にあるし、アルバムで自分の民族衣装を着た姿の家族の新聞の切り抜きがあることを思い出しました。私は母にお姉ちゃんが話していたことを聞きました。すると、「そうやねん、お父さんはあなた達子供が生まれた時に外国の子供が色々困ってる現状を見て、自分の子供が日本で暮らしやすい未来を作るぞって決心しはってん。だから、1人にできることは小さいけど、今色々な人に話す機会があるなら、仕事が終わってから遅くまで色々な活動してはった。お父さんは『今は種をまく時期や。自分の行動が子供が少し大きくなった時に芽を出して、大人になった時花咲いてたらそれは大成功や、だからがんばる』って言ってはったな。」と話してくれました。私は今の父から想像しなかった一面を聞いた気がしました。

私達が困らない世の中って？私は何に困ってる？普通に学校に行って友達も仲良くしてくれる。市役所やお店に行っても外国の人が皆と同じように働いている。そう考えた時初めてお父さんの目指していた当たり前や普通の暮らし、そしてお母さんのあのふざけた「地球人でええやんか。」の意味がパズルの1ピースが入るように自分の中にしっかり納まって意味深い言葉であることがやっと理解できました。そうか！私のこの中に流れる血は色々な国の人の声・魂・叫び・想いが詰まっているんだ。それは私だけでなく友達もそうで脈々とつながる血のリレーが私達に受け継がれているんだということ。だからこそ精一杯生きてよい世の中を次の未来につないでいかないとイケないのだということが。

私はやっとわかりました。当たり前や普通のありがたさを。そしてそれは以前あった人達の苦労の上にあるということも。先生。今度私は誰かに「何人？」って聞かれたら「地球人でええやんか。」ちょっとお茶目なこの切りかえしを、みんなにも使ってみようかな？と思うのです。



この作文を聞いて生徒は、次のような感想を書きました。自分にもかかわる問題として深く考えていることに大変感心しました。

・私は作文の朗読を聞いて、人と人が認め合う心が大切なんだと感じました。「地球人でええやんか」という言葉をすごくいい言葉だと感じたし、そんなことも当たり前と言える、そんな人がいるというのはすごいことだなと感じました。作文を聞いているうちにとても素敵な言葉だと思いました。私はそれぞれの人の違いが当たり前で認め合える、そんな人になりたいです。

・友達との会話の中で、時々誰かの悪口とかよくない噂を耳にすることがあります。言っている方はおもしろ半分で話すけど、知らない間に周りの子とか友達に陰でささやかれていたとしたら、それってすごく怖いことだと思います。だから、そんな話題とか出てきたら、一緒に同調するのではなくて、「そう？」とか言ってみて見方を変えさせてみるとか、話題を変えようとかが、誰かが言われて嫌なことは言わないようにしたいです。

・この作文の朗読を聞いて、みんな同じ意見ではなく、人それぞれ違う意見を持ち、違うことを考えたと思います。日々の生活の中で、周りの人と意見が異なることはたくさんあって、その自分とは異なる意見をもつ人との間に壁ができてしまうことがあります。「人権」は人の権利です。それぞれ違う意見をもっていいし、反対なら「反対」と言えばいい。だけど、みんなと過ごしていることを忘れずに、周りの意見もしっかり聞くことで、もっと周りとの結びつきを強め、人の気持ちを考えられるようになるかなと思いました。

11月27日(火)の全校集会にてたくさんの表彰伝達を行いました。中学生の税についての作文、全国中学生人権作文コンテスト、中学生いじめ・非行防止標語コンクール、非行防止・地域家庭のふれあい・交通安全等に関するポスター・図画、高浜市小中学校音楽会プログラム挿絵、春日の森市民俳句・短歌・川柳の集いにおいて、高中生が優秀な成績を収めました。大変に誇らしく思います。合わせて次のような話をしました。

さて、今回俳句や標語の表彰がいくつかありました。皆さんは、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉を知っているでしょうか。字数で言えば、五七五になっていますので、俳句のような感じがしますが、ことわざとして扱われることが多いようです。作者は不詳です。誰がつくったのかわかっていません。意味としては次のように解釈されることが多いです。

稲穂とは稲のことです。実るとはお米になる部分がどんどん栄養を蓄えて重くなっていくことです。こうべとは頭のことです。ですから、頭を垂れるとはこの実った部分が自らの重みで垂れ下がることです。それはまるで、人が頭を下げている謙虚な様子と似ているというわけです。つまり、稲が成長すると実を付け、その重みで実の部分の垂れ下がってくることから、立派に成長した人間ほど頭の低い謙虚な姿勢であるという事を意味することわざです。

このことわざの意味を単純に「人は謙虚であれ」と解釈して、簡単に言われてしまうことがありますが、実ってから、いや実るからこそ謙虚になると言っていると思います。つまり人にとって実るとはどういうことかに注目する必要があると思います。

稲が実るには、日光、酸素、水、二酸化炭素、様々な養分などが必要です。また、途中で「中干し」と言って、一度田んぼの水を抜いて土の中の有毒ガスを抜き、代わりに酸素を入れ、そして、水を切った過酷な状態において、しっかりと根を伸ばさせることをします。これらがあって稲は豊かに実ります。

皆さんの場合は、家や学校やクラブや塾で学んだことや、様々な経験のひとつひとつがこれにあたると思います。皆さんはまだ実る途中です。そして、人は成長していく過程で様々な失敗をします。この失敗を生かすと知恵がついてきます。すべての経験を実りに変えて、そして、いつか立派であるけれども謙虚である、そんな魅力的な人になってほしいと思います。

平成30年も残りわずかとなりました。厳寒の候につき時節柄ご自愛ください。たくさんのご支援ご協力ありがとうございました。よいお年をお迎えください。